

平成28年度 佐賀県立白石高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
校訓「清明・自律・創造」のもとに、高い志と進んで責任を遂行する強い意志を持ち、社会に貢献できる。知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人材を育成する。	①生徒一人ひとりの学習状況等に応じた『伸ばす教育・伸びる教育の推進』 ②生徒一人ひとりの関心・意欲に応じた『進路ガイダンスの充実』 ③ハイレベルな文武両道を目指す『質の高い授業』と『行事・部活動のバランス』 ④規範意識や礼節、報恩感謝などの素養を育むことによる『品格のある校風の醸成』 ⑤家庭や地域社会との相互理解による『信頼される学校づくり』

達成度

A:十分に達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①生徒一人ひとりの学習状況等に応じた『伸ばす教育・伸びる教育の推進』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	生徒の基礎学力の向上を図ることができたか	①各教科で課題の調整を行い、1週間の家庭学習時間の平均を1.2年生は15時間以上、3年生は20時間以上にする。 ②各学期末成績で欠点保持者を1割未満にする。	①各教科で、具体的に家庭で取り組むべき内容を指示する。 ②普段の課題の未提出者には必ず指導をする。査考前には成績不振者に指導を行う。	C	①全学年とも目標達成できた生徒の割合は、30%を超えることがなかった。逆に、1.2年生においては、1日の学習時間の平均が1時間未満という家庭学習習慣が身につけられていない生徒が約30%に及んだ。また、3年生においては、白高祭(学校祭)からの切り替えができていない生徒がここ数年増えてきている傾向が見られる。 ②週末課題の未提出者には、優先的に居残り学習指導を継続した。	①新入生宿泊研修をはじめとし、家庭学習習慣の定着を機会あることに呼びかける。各教科で日々の取り組みむべき課題の指示と提出指導の徹底を図る。3年生においては、白高祭(学校祭)からの気持ちの切り替え指導に重点をおく。
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICT利活用に係る指導力の向上を図ることができたか	①全職員が必要に応じて電子黒板を利用し、効果的な授業ができるようにする。 ②授業で学習用PCを効果的に利用する方法を研究する。	教科ごとに研修会を行ったり、教科会でICT利活用法の情報交換を行う。さらに、教科の枠をこえた、授業参観や情報交換を行う。	B	①電子黒板に関しては、ほぼ全職員が必要に応じて活用することができている。②学習用PCに関しては、教科によって利用についての意識や、その取り組みにばらつきが大きいものの効果的な授業方法を教科内で共有している教科もある。	①電子黒板の利活用は、全職員がトラブルにも対応できるスキルを身につけていると考える。 ②学習用PCの活用法に関してはさらなるアプリの充実が望まれるとともに、教科の枠を越えた授業参観や情報交換の場を設けていく必要がある。
教育活動	○進路指導	学習到達度を上げることができたか	進研模試の学習到達ゾーンで、B2以上を増やす(1年1月40人、2年1月40人、3年11月25人)。またD層を減らす。	模試後には成績概況を提供し、各教科で生徒の学力を把握することで、適切な教科指導を行う。	C	結果(1年1月39人、2年1月12人、3年11月5人) 1年生は、ほぼ目標どおりだったが、2、3年生については、伸び悩みが見られ、結果として目標達成に至っていない。基礎基本の定着が完全にできていないところが、大きな要因の一つとなっている。なお、2年生の最終1月進研模試の結果は、学級閉鎖などで自宅受験となったため、信頼できる数値ではないが、他の模擬試験などの結果からも動案した。	英語、数学などで、応用力以前の基礎学力の定着ができていない生徒が目立ってきている。余裕がない生徒には、教科を絞ってでも、基礎学力の定着を図り、学力向上につなげていきたい。上位層については、教科間で連携しながら、高いレベルの実力をつける指導を個別に対応していきたい。
教育活動	○読書指導	進路を意識するなどして生徒の読書活動の向上を図ることができたか	・進路意識を高めるために、新しい図書館の配置とよりよい蔵書購入及び啓蒙を図る。 ・クラス単位の読書量を増やす。	・「特集コーナー」を設けて知的触発をする。 ・図書委員で管理する「学級文庫」を充実させてクラスでの読書環境を整える。	C	・「特集コーナー」は一定の効果はあるものの、反応が低いとは言えなかった。 ・「学級文庫」は冊数が少ないのと、入れ替えが少なかったせいか、思ったほどの利用はなかった。	・総合的な学習の時間の学問研究と連携しながら、ブスやグループへ直接アプローチをするのもよい。 ・「学級文庫」の本がもう少し興味の沸くものにしたい。予算が伴うが検討したい。

②生徒一人ひとりの関心・意欲に応じた『進路ガイダンスの充実』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	進路について情報を得る機会、考える機会を十分に与えられたか	①担任と進路に関する二者面談もしくは三者面談を年間10回以上実施する。 ②進路ガイダンスやオープンキャンパスへの参加率を1年生は50%以上、2年生は80%以上にする。	①形式ばった面談でなく、気軽に話し合える雰囲気づくりに努め、面談回数の頻度を高める。 ②クラスや掲示板に案内を掲示するだけでなく、部活動顧問とも連携し、参加を促す。	A	①コース選択や進路希望に関する面談を機会あるごとに行うことができた。 ②1.2年生ともに進路ガイダンスやオープンキャンパスへの積極的な参加が見られた。(進路ガイダンス参加率1年生87%、2年生43%；オープンキャンパス参加率1年生41%、2年生71%) 進路に関する情報についても、様々な形で提供することができた。	①進路に関するだけでなく、生徒とのつながりを大事にした日々の指導をこれからも継続していく。 ②学年の早い時期に進路意識を醸成させるため、進路ガイダンスや進路研究の取り組みをさらに充実させる。進路に関する情報提供については、デジタル、紙媒体ともに、その方法を工夫していく。
教育活動	○総合的な学習の時間	1年:自分の進路について考え、それに添ってグループで研究することができたか 2年:自分の進路実現の方策について研究し、個人で研究することができたか 3年:入試に応じた研究をするとともに、志望理由についても明確にすることができたか	1年:「夢を創るとともに、知る」 ・自己理解等をおして将来を見つめる。 ・グループで自分の問題を探る。 2年:「夢を実現するために、深める」 ・大学の学部・学科等の研究をする。 ・個人で自分の分野の問題を探る。 3年:「夢を実現するために、次へ進む」 ・自分の進路に応じた研究をする。 ・自分の進路志望理由を確認する。	1年:「夢研究」においてワークシートを用い、自己理解に基づいて夢を確認する。また、グループ研究において自分の分野の問題について考えさせる。 2年:職業・学部学科についてまとめさせる。また、個人研究において自分の分野の問題について考えさせる。 3年:個人研究において自分の分野の問題についてまとめさせる。また、自分の進路に対する理由書を完成させる。	B	1年:「夢研究」で運営上のトラブルは特になかったが、直接担当がかかわっていないので各自が自分の課題について考えることができたか不明である。 2年:職業・学部学科についてまとめさせることができたが、調べ学習で終わっているものが多く、手法もわかりにくいために、学術的論証が不完全なままのものが多かった。 3年:個人研究はそれぞれできていたが、志望理由書は入試に使えないレベルのものが多く、実際は指導担当者が決まってから考える者が多かった。	1年:データ管理の方法が途中で変更になったために、生徒の学習状況の把握が困難になった。データの管理方法を早く確立しなければならぬ。 2年:今日的な学問のあり方を受けた研究をするように、オリエンテーションでの説明の工夫をする。 3年:来年度の3年生は2年生で個人研究をしているので、さらに深化した研究ができるように課題等を出して進路実現を目指す。

③ハイレベルな文武両道を目指す『質の高い授業』と『行事・部活動のバランス』							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	分かる授業づくりはできたか	①互見授業の実施、および職員間の授業参観を実施し、授業の改善に努める。 ②授業評価を実施し、生徒の状況を把握し、授業の改善に努める。 ③指導力向上のための研修会への参加を支援する。	①互見授業後の授業研究会、および授業参観後の評価・感想を、授業の改善に役立てる。 ②2学期に授業評価を実施し、業績評価表にリンクさせるとともに、授業の改善に役立てる。 ③研修会や研究会等の情報提供を、積極的に行う。	A	①初任研究授業、管理職による授業参観、互見授業が実施された。教科をこえての参観ができていない。 ②2学期に授業評価を実施した。全学年学習用PCを用いて、全クラスで実施した。この結果をもとに、業績評価表の作成につなげ、授業改善の一助とした。なお、生徒の授業評価、保護者アンケートでは、日常の授業についておおむね肯定的な意見が多かった。 ③研修会や研究会等については、本年度は教頭先生に文書の整理をしていただき日報等で情報提供していただいた。	①教科をまたがった授業参観者が、少ない印象を受ける。研究授業の周知を徹底し、教科をまたがって気軽に参観できる体制づくり、雰囲気づくりを行い、授業の質を上げていきたい。 ②生徒の授業評価については、アンケート項目を見直した。さらに、生徒の実情に合ったアンケート項目の見直しが必要と思われる。 ③今後も積極的な情報を提供していく。
教育活動	○生徒会	生徒会活動や委員会活動を活性化できたか	各種委員会の活性化を図る。	委員会活動が一年間継続していけるように、関係校務分掌と委員会との連携を図った活動を計画し、実践する。	A	生徒会長に積極的に立候補する生徒が増え、また、生徒会の役員を希望する生徒も多くなり、生徒会本部の活気が出てきた。その中で、学校行事にも積極的に活動した。	今の生徒会本部の活気を引き続き保ちながら、学校行事の整列指導や朝の挨拶運動など生徒たちが主体的に取り組めることを増やしていく。
		ボランティア活動の充実が図れたか	生徒会やJRC部を中心としたボランティア活動を、年3回以上実施する。	①校内外におけるボランティア活動をJRC部と連携をとりながら行う。 ②朝の挨拶運動などとあわせて各種募金活動を実施する。	A	年間を通して、朝の挨拶運動を実施し、JRC部との共同募金活動や保健指導部と連携した校内美化にも取り組めた。	生徒が主体的に活動できる新たなボランティア活動を計画していく。
教育活動	○部活動	文武両道の推進を図ることができたか	①部活動加入率85%以上にする。 ②県ベスト8以上5部、ベスト4以上3部を目指す。 ③完全下校時間を厳守する。	①新入生に対し、部紹介や勧誘または見学などを行い、入部しやすい環境を作る。 ②継続した日々の練習で強化を図る。 ③学習時間確保のためにも下校指導を徹底する。	B	①本年度の部活動加入率は、88%であった。 ②県ベスト8以上6部、ベスト4以上4部と、ベスト4以上の部は達成できたが、ベスト8以上の部は目標達成できなかった。 ③完全下校時間の厳守は、実行できている。 また、日々の学校生活の中で、部活動も精神的に活動できた。団体で全国大会へ出場する部を出す。	①各学年とも協力して今後も維持できるようにさらなる工夫をしたい。 ②文武両道の実践のため、生徒会として学習環境を整えるとともにベスト8以上の部活動を増やせるように部活動でも強化してきた。 ③下校時間の厳守のため今後も下校指導を継続して行う。
④規範意識や礼節、報恩感謝などの素養を育むことによる『品格のある校風の醸成』							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	規範意識やマナー意識は向上したか	①服装・頭髪・挨拶・礼儀・マナー指導等を徹底する。 ②校則を遵守する意識を高め、問題行動ゼロを目指す。	①全職員でその場での指導、見逃さない指導を行う。また、生徒会及び学年団と連携し、朝の挨拶運動・登校指導を行う。 ②ホームルーム・全校集会・学年集会等で校則を遵守する意識を高める指導を行う。	B	①服装・頭髪の乱れた生徒がまだまだ見受けられる。生徒会役員による挨拶運動は充実していた。また、登校指導は学年団の協力もあり、効果的であった。 ②残念ながら今年度も問題行動が2件発生した。	①服装・頭髪指導は継続的に粘り強く全職員で行い、その場での指導・見逃さない指導を徹底していく必要がある。生徒会役員による挨拶運動及び学年団と連携した登校指導は効果的であり、今後も継続していきたい。 ②ホーム・授業・集会等のあらゆる場面で、品格や人間性を高める指導を行う必要がある。(集会時に生徒会長などから呼びかけさせる)
		安全、防犯意識の高揚を図ることができたか	登下校時の安全、防犯意識の高揚を図る。	自転車点検及び旋錠、自己管理能力を高める指導、危険を察知する能力を高める指導、交通安全及び防犯等に関する講話を等して、交通安全及び防犯意識の高揚を図る。	C	登下校中の自転車事故が数件発生した。また、駐輪場から無施錠の自転車盗難される事案が2件発生した。携帯・スマホの使用に対するネットパトロールからの指導が数件あった。	交通安全を遵守し、登下校時の安全に関する意識を高める指導を継続的に行っていく必要がある。また、自転車マナーに関する意識を高める指導も粘り強く行う必要がある。また、情報モラルについての指導にも力を入れる。
教育活動	●心の教育	思いやりのある豊かな心を育むことができたか	①ホームルーム活動や講演会等を通して心の教育の実践を図る。 ②地域の伝統行事への参加や文化の継承に努める。 ③教育相談体制を充実し、家庭との連携を密にする。 ④発達障害のある生徒を理解する。	①ボランティア活動や校内の美化活動など、自主的かつ積極的に参加できる環境を整える。また、「教育相談」「特別支援教育」「人権・同和教育」等の講演会を開催し、思いやりや人間性豊かな生徒の育成を図る。 ②文化祭での浮立や家庭科の調理実習での須古寿司づくりなどを通して、郷土愛を育み、地域の伝統文化のすばらしさに触れさせる。 ③報告書の作成などスクールカウンセラーの活用を十分なものとす。 ④特別支援教育に関する研修会を実施し、発達障害に関する支援の向上に努める。	B	①・ボランティア活動は、3年が6月、1年2年が9月に地域清掃を行った。美化活動は生徒会との連携を模索して実施した。校内美化・安全点検への生徒の積極的な参加が課題である。 ・教育相談講演会はスクールカウンセラーを講師として実施した。心の問題についての理解や対処法を学んだ。 ・人権・同和教育は、教育センターから講師を招き、職員研修及び生徒向け講演会を別日程で実施した。生徒、職員の意識も向上した。 ②文化祭における生徒による浮立の実演、家庭科調理実習での郷土料理須古寿司づくり等を通して郷土の伝統に触れ、郷土を想う気持ちを育むことができた。 ③スクールカウンセラーの教育相談内容については、担任や学年主任等の関係職員と管理職で共通理解を持つことに努め、対応に活かすことができた。 ④特別支援教育に関しては、うれしの特別支援学校から講師を招き、職員研修を実施した。専門的な内容の理解が進んだ。	①・美化活動に関して、生徒会と連携して実施する。 ・安全点検に関して、職員のみでなく、生徒目線の安全点検を生徒会と連携して実施する。 ・教育相談及び人権・同和教育に関して、生徒並びに職員の研修となるよう講演会を実施する。 ②これまでの行事を踏襲して、郷土を想う心を育成する。 ③スクールカウンセラーによる教育相談内容について、担任や学年主任等の関係職員と管理職との共通理解を深める。 ④職員研修の実施により、特別支援教育に関する知識を増やし、理解を深め、対応力を育成する。

⑤家庭や地域社会との相互理解による『信頼される学校づくり』							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見、早期対応に向けて学年主任と連携をとる。	①保健室と連携し、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ②担任団、部活動顧問と連携しいじめ予防、早期発見に努める。	①毎学期「学校生活アンケート」を実施しいじめ等の把握に努める。 ②担任団、部活動顧問との情報交換を行う。	B	①学校生活アンケートの実施により状況の把握はできている。さらに、確認の手法を工夫することが課題である。 ②担任団を中心としたいじめ問題に関する連絡や情報交換は適切に行われている。	①学校生活アンケートをベースとした情報収集をより正確なものにする。収集後に、いじめを確認する方法を工夫する。 ②現在、いじめ事案が少ないが故に、職員のアンテナを高くする取り組みが必要と思われる。
学校運営	○保護者等との連携	学校行事等への保護者の参加者が増えたか	PTA総会では、1、2年で出席率50%以上、3年生で80%以上にする。また、各学年保護者会では出席率を80%以上にし、白高祭などの学校行事への参加者も増やす。	①PTA総会において、教育講演会を実施することで、保護者の関心を高め、出席率の向上につなげる。 ②学校行事についても、学校便りで早めに日程を知らせておき、行事案内を届ける。	B	PTA総会の出席率は1・2年で40%に満たず、3年も50%に満たなかった。一方、白高祭は雨天による順延にもかかわらず、早期より多くの保護者が来校された。保護者の関心が高いことがよくわかった。 なお、各学年の学年保護者会については、1年(文理選択説明会)75%、3年(進路コース別説明会)87%と、積極的に出席いただいていた。	以前よりは保護者の関心が学校に向いていると思われる。今後も学校便り、ホームページ等で学校行事については、積極的に広報活動を行ってきたい。PTA総会については、PTA役員と協議しながら、出席率向上に向けて取り組んでいきたい。特に、講演会の講師選定、演題等についても十分検討していく。
学校運営	○情報発信	学校情報の積極的な発信ができたか	①学校教育目標を、機会を捉えて保護者に周知する。 ②「白石高だより」を年5回以上発行し、学校情報を外部に積極的に発信する。 ③体験入学の参加生徒(中学生)を、昨年度比5%増にする。	①PTA総会、学年保護者会など、機会を捉えて学校教育目標を紹介し、周知する。 ②「白石高だより」の発行に際しては、より効果的な情報発信の在り方としての配布方法を検討する。 ③体験入学の計画を早期に立案し、中学校へ案内するとともに、ホームページを利用して、事前の広報周知を徹底する。また、模擬授業など、中学生の興味関心を高める工夫をする。	A	①学校教育目標はホームページに掲載しているが、PTA総会や学年保護者会での紹介については、インパクトが弱かった印象を受ける。 ②「白石高だより」の発行が、計画通りに発行した。また、本年度は近隣の中学校へ配布をした。ホームページの更新を頻繁に行い、部活動の部分を除き、学校生活の様子を発信できた。 ③体験入学に参加した中学生は前年比-2.4%(H27:297名、H28:290名)で、目標に届かなかった。	①PTA総会や学年保護者会、ICT公開授業などの出席率を、上げることが必要である。 ②「白石高だより」については、構成・編集内容等を再考していく必要がある。部活動の情報更新を顧問に促すことで、ホームページの充実を図りたい。 ③模擬授業は、中学生からはおおむね好評である。学校生活の様子については、「白石高だより」、ホームページ等で伝えることができた。来年度は、高校再編に伴い、新高校がどのような学校になるのか中学校への事前の広報周知の徹底が必要である。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と自己管理能力の向上を図る。	①朝食摂取率(90%以上)の向上を目指す。 ②保健室利用者数年間800人未満を目指す。 ③感染症予防に努める。	①学年会、全校集会、PTA総会等で食事、睡眠、運動の重要性を伝える。 ②自己管理、問題に対する自己解決を促し、リピーターの減少に努める。 ③流行期には、うがい、手洗い等感染症予防のための取り組みを徹底し、また予防接種を推奨する。	A	①適宜発行している保健だより、朝食アンケートの実施、全校集会等での指導を通して、生徒たちの意識向上に努めた。 ②保健室に頻繁に入室する生徒たちに対しては、機会あるごとに自己管理について指導助言を行っている。入室者数の減少にまでは至っていないが、歯止めにはなっている。保健室利用リピーターの減少が課題である。 ③インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症については流行の状況を早期に把握して対応に努めており、校内での大きな感染拡大には至らなかった。	①保健だよりの定期的な発行やアンケート実施等により、生徒の健康に関する意識を高める。 ②機会あるごとに自己管理について指導助言を行う。安易な保健室利用のリピーターについての減少策を検討する。 ③感染症に関しては、流行の状況を早期に把握し、対策を立てて早めに対応をスタートする。
4 本年度のまとめ・次年度の取組							
<p>・生徒・保護者アンケートから、本校の教育活動に関して、おおむね肯定的な意見をいただいた。また、学校全体としても、重点目標の実現に努力してきた。</p> <p>・生徒の家庭学習習慣の確立、また生徒一人として部活動と家庭学習の両立を図ることができるバランスのとれた人間形成を図っていくために、生徒の学力向上が今後の課題である。</p> <p>・次年度は、①高校再編にともなう新「白石高校」の教育内容の充実およびその広報活動による積極的な生徒募集、②多様化する生徒に対応できる教育環境の整備・充実に取り組み、地域や保護者に「より信頼される学校づくり」に尽力していきたい。③積極的な情報発信の結果、海外研修をした生徒が延べ5名いた。(平成27年度は1名)グローバル人材の育成を図り、来年度は取り組みを拡大していきたい。</p>							

●は共通評価項目、○は独自評価項目